

**文庫あれこれ**◆あいにくの雨です。おまけにととも寒いです。花壇のチューリップが長い首をたれてます(16日朝)◆保育園、幼稚園、小学校、中学校、すべてのフレッシュマン、元気に新しい生活を楽しんでいますか?◆来る途中、町田で用事をすませて、ここで野菜を買っていこうと思って教えられたスーパーに入ったら、小さな春キャベツ半個 285円ですって!買わずに伊豆高原まで来てしまいました。駅の階段下の初めてみる八百屋さんで若いほうれんそう一把 120円で買いました。甘かったです。◆さて、文庫の本が寄贈いただいたりしておかけさまで急増中。たくさん本をみなさんに見ていただくために、ないお金と知恵をしぼって考慮中です。◆一昨日、スウェーデン大使館に行ってきました。海外旅行する友人のかわりに。そこで、先月ちょっとご紹介した本『ステッフィとネリの物語4部作』の作者・アニカ・トルさんのお話を聴きました。第2次世界大戦当時のユダヤ人の子どもの話です。彼女もユダヤ人ですが、ご本人はまだ生まれていませんでした。スウェーデンという国が当時どんな立場にあったか、スウェーデン人が受け入れたユダヤ難民の子どもたちは、等々伺いました。この物語は特殊な状況に置かれた姉妹の話であると共に、少女が大人になっていく普遍的な成長の物語だと話しておられました。60歳というのに、とても若々しく、こちらもちよっと背筋を伸ばさねば、と思いました。◆すごく印象に残ったのは、彼女が自らシナリオを書いたこのおはなしの映像を観たことです。最後、6年以上たって、収容所で生存していた父親と暮らすために、姉妹はおば夫婦のいるアメリカに発つのですが、実際の物語では父親との再会シーンはないのです。が、ドラマではラストシーンを再会の場面に持ってくるんです。父と娘たちの間に一切ことばがありません。驚き、近づき、戸惑い、笑い、父の腕にだかれる…。とても見事でした。さすが、原作者の手になる脚本と思いました。(日頃、小説の映画化にがっかりしている私)◆5月はアートフェスティバル。1週間ほど開館します。お時間のあるときぜひおいでください。いつもでないお楽しみコーナーもご覧いただけます。(西村)

♥たくさんのご本を寄贈いただきました!♥

森さま、吉祇さま、広瀬さま、そして、いつも買って読んだらすぐお届けくださる小野さま ほか みなさま、ありがとうございます!

“ “これからの催し物のお知らせ” ”

5月:アートフェスティバル期間

★別紙(文庫だより44-2)にてお知らせ

7月18日(日)

午前10:30~12:00

文庫開設記念子どものためのおはなし会

午後4:30~7:00

10周年記念・海の日のおはなし会

8月:夏休みロングオープン(14~22日)

10月:秋の夜長のおはなし会(16日)

12月:クリスマスお楽しみ会・おはなし会(19日)

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆5月は8日(土)~16日(日)

◆6月は通常。19日(土)、20日(土)

◆7月は通常。17日(土)、18日(日)

◆8月は14日(土)~22日(日)

◆文庫の時間:土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

♥文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

みんなで勉強会(おはなしの会・沙羅)

★5月8日(土)11時は子どものための若葉のころのおはなし会のリハ。5月15日(土)夕刻、大人のためのおはなし会リハーサル。

連絡先:沙羅の樹文庫

電話 0557-51-3737

# 沙羅の樹文庫便り

No.44

(2010年4月号)



したきりすずめ

(長谷川摂子・文 ましませつこ・絵 岩波書店)

桜の季節を過ぎて、若葉が萌えいずる季節へ!

私は話したい

目白やきつつきと

熊やリスと

きき耳ずきんなんかかむらないでも

君たちの言葉が解りたい

もろこやなまずに

亀の子や蝶々に

降りそそぐ日光の中で

やさしい風にふかれながら

つばなやたんぽぽと

ゆすらうめやあんずと

(井上多喜三郎 作)

『桐島、部活やめるってよ』（浅井リョウ著 集英社 10）

本のタイトルが口語そのままなので、これは現代の若者に受ける軽いノリで書かれているに違いないという先入観、というか思い込みがあって、読み始めました。

しょっぱなから「え、ガチで？」おーとダルそうに答えながら……

これってどういう意味？ ガチってこれを読んだだけでもう読むのやめようかなと思いました。でもこの著者って何者？ 本の裏表紙の写真をみるとやっぱり今の若者、でも経歴を見ると現役大学生で第 22 回小説すばる新人賞をこの本で受賞・デビュー、とある。もう少し読んでみるかなと読み進むと、タイトルに出ている桐島は一向に登場せず、彼を取り巻く高校生男女 5 人がひとりずつ、彼らの高校生活、主に部活動や友人関係を語り物語が進んでいく。その手法がとても新鮮に感じられ、最後まで読んでしまいました。

4 月 4 日付朝日新聞に「売れている本」としてこの本の書評を佐々木敦氏（批評家）が、「本書では、高校生活が、容姿やセンスで人間を選別する、という残酷な原理が描かれている」けれど、でも最後は「ダサイ文化系がイケてる体育会に勝利(?)する」物語であると、評しています。私も読む前は、今の若者を理解することができるかな? と思いましたが、表現方法が少し違って、私たちの若かったずっと昔の高校生活と根底にあるものは変わっていないとわかり、ホッと安心しました。（ネコばあ）



観たような気がします。今でも『二十四の瞳』の多くの場面を思い出すことができます。彼女の声と、眉を八の字にして泣きそうになるところ、嗚咽する声、ほっぺが膨らんでいるのも好きでした。それから彼女が肉親の愛情に恵まれないことも知っていましたが、映画の彼女とエッセイの中の彼女の差異も好き。みんなひっくるめて何だか私の高峰秀子、という感じでした。世の中からすーっといなくなっても高峰秀子は私の思っているように生きてるんだな、そんなふうに考えていました。

新聞で『高峰秀子の流儀』の出版予告をみて、彼女の著だと勘違いして買いましたら、高峰秀子を「かあちゃん」と呼び、夫・松山善三を「とうちゃん」と呼んでいる斎藤という人の作と知り、それでも最近の高峰を知りたくてむさぼるように読みました。

結果、私はいささかがっかり、しました。高峰秀子を敬愛する人間として余すところなく抽出しています。親しい関係だからこその素晴らしさもあるでしょう。でも、私は、高峰に対する著者のあまったるい敬慕の気持ちなどいらなかった。ひょっとして私は著者に嫉妬しているのかもしれませんが、著者の感情でなく高峰の素顔を映し出してほしかった。

そんなことを言ったら、Nさんが「斎藤さんの『最後の日本人』は評判でしたよ」と教えてくれた。それも読みました。そして、彼女というインタビューーは、会った人を自分の身に引き入れて饒舌な人と分かりました。きっと、それが彼女の得意とするところで、それに心を寄せる人もいるのでしょう。『最後の〜』は、インタビューを受けた人の手（写真）がとても興味深かったです。わたしの勝手な感想ですが、聴き手は、しゃべり過ぎてはいけない、もっと聴いたことをそっと手渡ししてほしい、と思った次第です。（AN）

✧まるで上記の本に相乗リしたかのようにキネマ旬報社より『高峰秀子』の写真集および自選映画解説ができました。私としては嬉しいことですが…✧

『ミスター・ピップ』（ロイド・ジョーンズ著 大友りお訳 白水社 09）

私たちは、知らずに、または新聞紙上の片隅に載っていても気にもとめずにいるけれど、この地球の上では、どこかで絶えず戦争は起きている。そして、この本は、戦う当事者でなく、その戦いに何の関係もなく巻き込まれ傷つく人々の、声なき重み(存在)に気づかされた深く印象に残る作品だった。

世界有数の銅山を自国の自由にしたいパプア・ニューギニア政府とそれに抵抗する島の若者たち革命軍。それまで銅山で働いていた人々、牧師、教師はみんな島を去って、たったひとり残った白人、ミスターワッツ。彼のしたことは、ディケンズの『大いなる遺産』を毎日 1 章づつ、子どもたちに読み聞かせることだった……。これが、子どもたちに喜びを、そして島民に悲劇をもたらすことに。

物語は、当時 13 歳だったマティルダの回想として、語られてゆく。残酷な殺戮も虐殺も心にうけた衝撃をもたんだんと。この少女の心の外で、ただただ起きた事実を綴ることで、読者の心に不条理と悲しみがしみ込んでいく。ミスターワッツが読んだ『大いなる遺産』が物語の鍵をにぎるわけだが、どうぞ、これも併せて読まれたし。今回『大いなる遺産』も読んだことで、私は 2 倍ではなく数倍の読書の楽しみを実感。こんな読書方法もあり、です。

さて、みなさんは、この物語の舞台となったブーゲンヴィル島（ニューギニア、ソロモン群島の北に位置）の上空で、山本五十六が撃墜されたことをご存知でしたか？ この物語の抗争(1991 年〜)で革命軍が使用した銃器は太平洋戦争終焉時、日本軍が残っていたものだったことも。そして、この近海の島々で、多くの日本兵が亡くなったのです。人と人、国と国の戦いを回避して人間がこの地球上で共存共生してゆけるには、どうすればよいのでしょうか。タイでの暴動、村本さんの死。考えさせられることばかりです。（さ・ら）



『増補版 敗北を抱きしめて—第二次大戦後の日本人 上』（ジョン・ダワー著 三浦陽一・高杉忠 明訳 岩波書店 10）

リクエストで 買っていただいた本。予想どおりの見事な本で、「下」も読まずに感想を述べるのは一寸早すぎるかもしれないが、とりあえず。

最近よくあるお手軽な出版物の中でこういうがっちりとした著作物を読むと、さすが岩

波書店の本と言いたくもなる。原本は、第二次大戦が終わった 1945 年から 54 年が経過 1999 年に出版されたとあるが、やはりしっかりと事実を確認し、広い偏りのない視野で、歴史を過不足なく総括するには、50 年以上の年月が経過することが必要だったのだろう。実はこの本のタイトル『敗北を抱きしめて』(Embracing Defeat) の「抱きしめて」に深い意味がある。著者が「これこそが適切なタイトルなのである」と自負する、その 1 点は重要で、これはこの本を読めば納得できるのである。

（森・林・浴）

★これではぜひ読まねばなりませんね。下巻、入りました!



斎藤明美著『高峰秀子の流儀』（新潮社 2010）と『最後の日本人』（清流出版 2009）

私は高峰秀子が大変好きです。映画は小学 4 年のときクラス全員で観た「二十四の瞳」以来、随分

子どもの本 (新規購入)

絵本

『したきりすずめ (てのひらむかしばなし)』『つるのおんがえし』『へっこきあねさ』『十二支のはじまり』『やまんぼとがら』『さばうりどん』『かちかちやま』『ももたろう』『三まいのおふだ』『いっすんぼうし』『ねずみじょうど』『はなさかじい』『はなたれこぞうさま』『こぞうのはつゆめ』『しおふきうす』『うばのかわ』『こだぬきのおんがえし』『くわばらくわばら』(長谷川摂子文 岩波書店 04~09) ※すべて、「てのひらぶんこ」絵作者は本によって違う。

『水曜日の本屋さん』(シルヴィ・ネーマン文 オリヴィエ・タレック絵 平岡敦訳 光村教育図書 09)『ねえ、ほんよんで!』(レイン・マーロウ作・絵 福本友美子訳 徳間書店 08)

『時の迷路—恐竜時代から江戸時代まで』『続・時の迷路—明治、大正、昭和、そして未来へ』(香川元太郎作・絵 PHP研究所)★リクエスト

読み物

『ちいさいアカネちゃん』(松谷みよ子作 講談社)『ミスター・ピップ』(ロイド・ジョーンズ著 大友りお訳 白水社 09)『魔使いの過ち 上・下』(ジョセフ・ディレイニー著 金原瑞人・田中亜希子訳 東京創元社 10)

3月に間に合わなかった本

『かっきくけっこ』『なんのぎょうれつ?』『ブンブンガタガタドンドンドン』『おとうさんはだいくさん』『むかしむかしとらとねこは…』『よぞらのみあげて』『トムとことり』『ないしょのおともだち』『ともだちのしるしだよ』『1ねん1くみ1ばんサイコー!』

『水曜日の魔女』『12の怖い昔話』『船乗りサッカーの怖い話』『ホテル・フォー・ドッグズ』『かりんちゃんと十五人のおひめさま』『グリム姉妹の事件簿1』『アーサー王ここに眠る』『楽しいスケート遠足』『黒ねこの王子カーポネル 新版』『おつきさまのやくそく』

子どもの本 (寄贈本の中から)

今年も東京のHさんから100冊以上、いただきました。その中からノンフィクションの本を紹介します。

図鑑・事典

『ニュース年鑑 2010』『スポーツ年鑑 2010』『クローズアップ大図鑑』『昭和のくらしがわかる事典—「いま」とどうちがう?』『ちがいのわかる絵事典』『改訂版 身近な単位がわかる絵事典』

詩・俳句・ことば

『長田弘詩集—はじめに……』『黒田三郎詩集—仕度』『吉野弘詩集—奈々に』『斎藤孝の親子で読む百人一首』

『てのひらの味—食べ物の俳句』『うしろすがた—いろんな人の俳句』『ボールコロゲテースポーツの俳句』『三つかぞえて—日常の俳句』

『絵でわかる慣用句』『絵でわかる四字熟語』『口べ先生とはじめてのえいご』

動物

『むしのなかま』『無視の目で狙う軌跡の一枚—昆虫写真家の挑戦』『ホテルがすきになった日』『おかえりコウノトリ』『いのちかがやけ!タイガとココア』『しあわせのバトンタッチ—障害を負った犬・未来、学校へ行く』『シマリス』『ペンギンたちに会いたくて』

植物

『植物のふしぎ』『通学路の草花えほん』『瀬戸照の生物』

ほか

『地球が回っているって、ほんとう?』『金メダリストのシューズ』『おもしろ空気遊び』

♥そのほか、たくさんの絵本、読み物がありますよ。

大人の本

『岸辺の旅』(湯本香樹実著 文藝春秋 10)  
『きみ去りしのち』(重松清著 文藝春秋 10)  
『存在という名のダンス 上・下』(大崎善生著 角川書店 10)

『水死』(大江健三郎著 講談社 10)  
『ナニカアル』(桐野夏生著 新潮社 10)  
『唄の旅人 中山晋平』(和田登著 岩波書店 10)

『ケンブリッジ・サーカス』(柴田元幸著 スイッチ・パブリッシング 10)

『ポルトガルの館』(横尾忠則著 文藝春秋 10)  
『ロスと・シンボル上・下』(ダン・ブラウン著 越前敏弥訳 角川書店 10)

『ゲゲゲの娘、レレレの娘、らららの娘』(水木悦子・赤塚りえ子・手塚るみ子著 文藝春秋 10)

『決定版! ジョーク世界一』(天馬龍行編著 アカデミー出版 09)

『大切な人をどう看取るのか』(品の毎日新聞社文化部著 岩波書店 10)

『世界を、こんなふうに見てごらん』(日高敏隆著 集英社 10)

『増補版 敗北を抱きしめて—第二次大戦後の日本人 下』(ジョン・ダワー著 三浦陽一・田代泰子訳 岩波書店 04)★リクエスト

『高峰秀子』(キネマ旬報社 10) ☆自選13作・自作解説

『老後に本当はいくら必要か』(津田倫男著 祥伝社新10)『アホの壁』(筒井康隆著 新潮新書10)

『翔ぶが如く 8』(司馬遼太郎著 文春文庫 09)  
『ごろつき船 上・下』(大佛次郎著 小学館文庫 10)『大いなる遺産 上・下』(ディケンズ著 新潮文庫)

『人間の建設』(小林秀雄・岡潔著 新潮文庫)  
『思考の生理学』(外山滋比古著 ちくま文庫)

『喜びの地下水』を求めて—石井桃子が児童図書館にのこしたもの』(汐崎順子・尾野三千代著 児童図書館研究会 10)『この絵本がすき! 2010 年版』

(別冊太陽編集部編 平凡社 10)

# 沙羅の樹文庫からのお知らせ

沙羅の樹文庫も例年のように、伊豆高原アートフェスティバルに参加します！

開館期間 5月8日(土)～16日(日)  
10:00～15:00

## イベント

展示会：5月9日(日)PM～16日(日)AM  
手作り絵本展  
by 豆の木(グループ名)

図書館を使った“調べる”学習賞  
コンクール優秀作品(複製)展  
By NPO 図書館の学校

文庫蔵書(探検)：隠れている面白い  
本を見つけよう！展  
こんなテーマの本ないかな？ 展

村上春樹著作(寄贈)コーナー開設

## 若葉のころのおはなし会

### 子どものためのおはなし会

5月9日(日) 10:00～11:00

手遊び・読みきかせ・おはなし

★16日(日)の小さなおはなし会はありません。

### おとなのためのおはなし会

5月16日(日) 16:30～18:00

1部(おはなし・沙羅のメンバー)

詩：海の不思議

## 予告板

### 第10回海の日のおはなし会

(伊豆急行 後援)

日時：7月18日(日) 16:30～

場所：伊豆高原駅 大クスノキ下

プログラム：

子どもによるおはなし

Akino (歌・演奏)

昔話・創作話

語り手：海の日のおはなし会メン